神戸新聞 2020年06月06日 土曜日 面名 朝三社 13 21ページ

洲本 恐竜時代の海鳥化石

アジアで初めて発見

三田市の兵庫県立人と自然の博物館は5日、淡路島に分布する和泉層群（洲本市）で、後期白亜紀に絶滅した海鳥「ヘスペロルニス類」の化石が見つかった、と発表した。白亜紀末期（7200万年前）の海の地層から、同海鳥の骨の化石が見つかったのはアジアで初めて。この時期に北半球の広範囲で水陸問わず生息していたことが確認され、研究者は「生物の多様性を示唆する貴重な化石」と評価する。

洲本市で見つかったヘスペロルニス類の骨（田中公教さん提供）

化石は左すね部分とみられる骨約12㌢。相生市の化石愛好家、桔梗照弘さんが2004年に発見し、丹波市職員で同市立丹波竜化石工房の田中公教さん（33）と、人と自然の博物館研究員が調査を続けていた。

ヘスペロルニス類は歯がある飛ばない海鳥で、元々は海に生息していたが、陸地を好むようになったという。田中さんによると、大きさはニワトリほどから、大人の身長を超えるものもある。今回発見されたのは体重5㌔ほどの未成熟な個体とみられる。

白亜紀末期の地層からは、北米では陸と海の両方で見つかっていたが、アジアでは陸でしか発見されていなかった。

田中さんらはこの発見を論文にまとめ、国際学術雑誌に投稿。4月に受理された。田中さんは「（骨のごく一部という）小さな発掘が、世界的な発見につながったケース」と話す。

同館は6月12日～8月31日、ヘスペロルニス類の化石と論文などを展示する。入館料（高校生以下無料）が必要。同館☎079・559・2001

（斉藤絵美）

名前【　　】

① 淡路島（あわじしま）で見つかった恐竜時代（きょうりゅうじだい）の海鳥（うみどり）の名前（なまえ）を書（か）きましょう。

類

② いつの時代（じだい）の地層（ちそう）から見（み）つかりましたか。

紀末期（きまつき）

万年前（まんねんまえ）

③ この発見（はっけん）が世界的（せかいてき）に貴重（きちょう）とされる理由（りゆう）を書（か）きましょう。

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。